

■劇団員のひとこと

在団年数 ①入団(創設)のきっかけ
②演じるときに心がけていること

秋山 太加：創設メンバー、9年
①習っていた恩師が独立するということで、自分たちでグループを結成した。
②想像力と創造力を豊かに、役の人物を創っていきたい。お客様と呼応しながら、舞台の空気の中に入って役を生きることができたら嬉しい。

田中 章恵：創設メンバー、9年
①劇団代表の秋山の朗読に対する熱い情熱に引っ張られて。
②役に成りきり、自然体にして、無の境地に到達するのが理想。苦しいけれど変身の醍醐味を味わいたい。

太田 淑子：8年
①創設メンバーの研究生時代の発表会を見て、面白かったから。(この時の指導は姉川明子)
②どう表現すれば、人物の実像に迫ることができるのかを常に考えている。

福嶋左知子：6年
①旧団員に誘われ、稽古見学、その後ズルズと…。
②まずは朗読劇としての一言一句を大切に、それから役に溺れず客観描写をすること。そして更に距離感、動きのキレ、空気感に気を配りお客様と一緒に自分も楽しむこと。

■次回公演のお知らせ

2012年12月8日(土) 16時開演
於：山本能楽堂(場所：大阪市中央区徳井町1-3-6)
舞と箏曲、縁(ゆかり)の会・賛助出演
* 演目未定・詳細はホームページでもお知らせします。
* 公演案内をご希望の方は、アンケート用紙にご住所、お名前をご記入下さい。

■劇団員、スタッフ募集中

まずは、お気軽に稽古場見学にお越しください。
お問い合わせは下記まで
TEL&FAX / 0742-48-8688(秋山)
メール / roudokugen@yahoo.co.jp
ホームページ / 朗読劇団 朗読GEN
http://r-gen.jimdo.com
(朗読GENで検索できます)



2012年
7月7日(土) 17時開演 (30分前)
7月8日(日) 13時開演 (30分前)
会場 一心寺シアター倶楽

原作/井上 ひさし
上演台本 秋山 太加
構成・演出

新釈遠野物語 『鍋の中』

■キャスト

ぼく・女……………秋山 太加
犬伏老人の若い頃 福嶋 左知子
男……………田中 章恵
犬伏太吉老人…太田 淑子

四捨五入殺人事件

藤川武臣……………福嶋 左知子
石上克二……………田中 章恵
課長補佐・岡田…太田 淑子
花村巡査・織田加代・小夜
秋山 太加

花江・高梨医師…M I Y A
恵美・島原先生…坂田 昌子
鬼哭きの里の農民たち

ITC太極拳愛好会(特別出演)

伊奈遊子
阿部のぞみ
岡 泰
高橋 彰一
瀧下 和夫
能見 卓男
山上 民治
山口 統一郎

尺八演奏…小林 鈴城
(特別出演)

■スタッフ

音 響……………西角 秀紀
(南ムーブファクトリー)
照 明……………牟田耕一郎
(劇団ママコア)

舞台監督……………佐野 泰宏
ヘア・メイク……………五十嵐公子
(日本メイクアップアーティスト学校)
衣裳製作……………青柳 秀子
宣伝デザイン…桂 瑞子
鬼舞い振り付け…阿部のぞみ
記 録……………小島 知光
ヘア・メイク……………寺田 茜

藤原 美弥
嘉住 友李
阿部 愛美

制 作……………丹原 祐子
(office P-T企画)
協 力……………田中 仁美
亀井 恵子
斉藤満佐子

稽古場協力 南ムーブファクトリー
印 刷……………宣光 社
企画・製作 朗読劇団・朗読GEN

■プロフィール

小林 鈴城

青木鈴慕(琴古流尺八鈴慕会
宗家・人間国宝)に師事。
関西学院大学理学部卒。日本
三曲協会会員、琴古流協会会
員、鈴慕会大阪支部長。
一城尺八製作も行う。

ITC太極拳愛好会

伊奈遊子(ゆり)主宰。
太極拳愛好家の国際的拠点(I
TC)を目指している。
和泉市の光明台、みずき台、光
明池と、千里、北中島に教室が
あり、合宿、ハイキングなどイ
ベントを実施。
中国の古代導引の世界と万葉の
世界を融合したオリジナルの「万
葉体操」の普及にも努めている。

第10回定期公演を迎えて

演出 秋山 太加

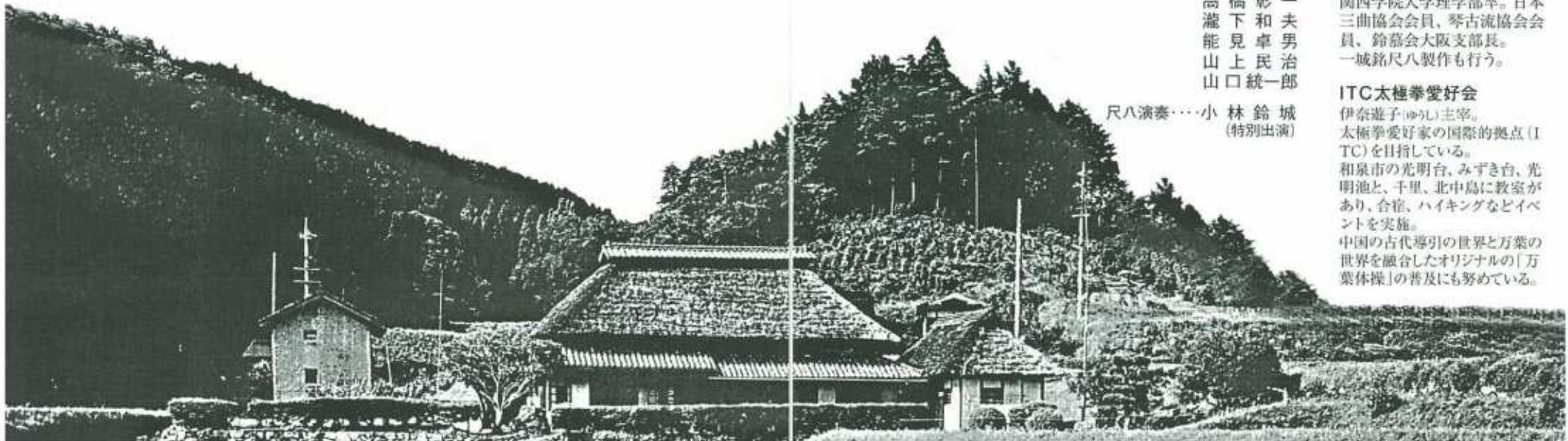
本日はご来場いただきまして、まことに有難うございます。
昨秋、大震災の爪あとが残る福島県郡山市で開催された
演劇大学に参加しました。

シニア演劇講座の県外からの受講生は2名で、あわや講
座が消えるところでしたが、県内の参加者2名と共に3日
間、夜遅くまで稽古に励み、主催された皆さんの演劇への
熱意と、参加していた福島の高校生の演劇レベルの高さに、
圧倒され、刺激をいっぱいもらって帰ってきました。

今年の3・11に、福島の高校生は、東京の高校生と共に
原発事故による不安、いじめ、葛藤、現在の日本社会への
訴えなどを演劇によって表現しました。芝居を通して高校
生たちの怒りや、悲しみが、一人でも多くの人に届いてく
れることを祈るばかりです。

足元の生活が揺らぐなか、「文化よりお金」という傾向を
見聞きするこの頃ですが、こんな時こそ苦しいこと、辛い
ことを、ひとときでも忘れ、楽しむものが必要で、芝居に
はそれだけの力があると思います。奇想天外な発想、時に
痛烈な社会への問題提起等々、様々な魅力がまつまっている
井上ひさしの作品に、今回取り組むことができて、本当に
幸せです。

今日まで、朗読GENを支えてくださった、多くの人た
ちへの心からの感謝を胸に本日の舞台をつとめます。
どうか最後までご覧くださいませよう、よろしくお願
いいたします。



新釈遠野物語

〔解説〕

1976年刊行のこの物語は、柳田国男の名著「遠野物語」を背景としている。しかし、決して「遠野物語」の延長線上にあるわけではない。

「私たちがほとんど失いかけてようとしている根源的な大きなものを『遠野物語』をテコにして、哄笑と共によみがえらせようとする実に楽しい試みの書なのだ」と演劇評論家の扇田昭彦氏が書いている。

■その頃の井上ひさし

物語のほくの経歴に重なり合うが、上京して上智大学に入学した井上ひさしは、入学早々大学に失望し、当時母親が住んでいた岩手県釜石市に帰省して、やがて国立釜石療養所の事務員となる。

この釜石療養所は、事実「港町から歩いて2時間ばかり遠野の方角へ戻りした山の中」にあって、小説に書かれている通り、医事係だった作者は入所患者の医療費の請求のために遠野まで、出かける機会が多かった。井上ひさしはこの頃のことを「遠野が自分を呼んでいると思うほど、遠野にのめりこんでいた時期があった」と語っている。

■新釈遠野物語にこめた思い

しかし遠野への愛着が増すと同時に「遠野物語」に対する思いが変わってきた。まぎれもない名著であることは確かだが、元来が語り物であった昔話が、学問としての立場から「日本人とは何か」という命題で語られるとき、どうも国家に召し上げられた感が生まれたようである。

そこで井上ひさしは「新釈遠野物語」を書くにあたって、「遠野物語」では省略されてい

たもの、昔話の語り手と聞き手、そして語りの調子を復活させた。語り手と聞き手がなければ成立しない演劇の構造を持ち込み、往時の昔話の雰囲気や、問合いを復元しようとした。作者の楽しい工夫が随所に見られ、奇抜な発想、伸びやかな人情味、思いもかけぬ展開に読者は引き込まれるのである。

「鍋の中」あらすじ

大学を休学した「ほく」は、遠野近くの山中の国立療養所で働くこととなった。ある日昼休みに、突然トランペットが鳴り響いた。その奏者を探して、向山をたずねた「ほく」は、1人の老人と出会うのだが……

四捨五入殺人事件

〔解説〕

昭和50年7月から9月にかけて「週刊小説」(実業之日本社発行)誌上に初出連載された長編小説である。本編は最初未刊行の長編であり、昭和59年新潮文庫で初めて一本にまとめられたのである。ストーリー展開の大筋となる主題の一つ、日本の封建旧幕時代からの「農政」理念が大きく扱われており、この主題はこれから6年後の大作「吉里吉里人」において、再び拡大して取り扱われることになった。

「吉里吉里人」はベストセラーとなり、日本SF大賞も受賞、井上ひさしの小説分野の代表作となった。

この作品には戯曲作家としての作者の手腕が、遺憾なく発揮されているのだが今回の舞台では、冥界に行かれた作者に心よりお詫び申し上げなければならぬ。

今回は時間の都合上、本編全てを上演できないのである。しかし、何とか、農政に対する痛烈な批判を主題とするこの作品の骨格を大切に、皆様にご覧頂けるように工夫したつもりである。その点どうかご容赦をお願いする次第である。



あらすじ

ある年の6月、二人の作家がつれていかれたのはテレビもない山の中の鬼哭き温泉、高屋旅館。しかも折からの大雨で村に一つしかない橋が流されてしまう。陸の孤島に閉じ込められた二人の前で、突然起こる怪異な出来事。さて事件の背後にあるものは……

一口メモ

明治8年7月、兵庫県神崎郡に生まれる。父、約童は医学を学んだ後、漢学の教師となり、明治維新後は神官となった。母、たけは気性のはっきりとした物事の理解力に優れた人、国男は父の読書癖と母の潔癖なりアリストの性質、負けじ魂を受け継いだ。13歳で長兄のいる茨城県に移る。旧姓は松岡、結婚して柳田家の養子となる。帝国大学卒業後農商務省に入る。明治43年に著した「遠野物語」は日本民族学発祥の記念碑的作品。

■柳田国男「遠野物語」

井上ひさし略年表

1934	11月16日に山形県東置賜郡小松町(現・川西町)に生まれる。本名は慶
1949	生活に困窮し、ラ・サール修道会経営の児童養護施設「仙光台光ヶ丘天使園」に入園
1953	上智大学文学部ドイツ文学科に入学
1956	上智大学外国語学部フランス語学科に転科。浅草フランス座の文芸部員となる
1958	浅草フランス座で「看護婦の部屋」上演投稿用の脚本も数多く執筆し、「うかうか三十、ちよろちよろ四十」で芸術祭脚本奨励賞を受賞
1959	「さらば夏の光よ」を「悲劇喜劇」に発表
1964	『ひょっこりひょうたん島』の台本を山元護久との共作で手掛ける
1969	テアトル・エコー「日本人のへそ」で演劇界デビュー
	『ひょっこりひょうたん島』で日本放送作家協会最優秀賞を受賞
1970	「ムーミンのテーマ」でレコード大賞童謡賞を受賞
1972	小説「手鎖心中」で直木賞受賞
	『道元の冒険』で岸田國士戯曲賞受賞
1976	オーストラリア国立大学日本語学科の客員教授に兼任、渡豪
1981	小説「吉里吉里人」で日本SF大賞、読売文学賞を受賞
1984	座付き作家としてこまつ座を旗揚げ『頭痛肩こり樋口一葉』初演
1986	小説「腰鼓記」「不忠臣蔵」で吉川英治文学賞受賞
1993	日本作家協会初代会長に就任(98年まで)
1997	新国立劇場開場記念公演として『紙屋町さくらホテル』初演
2001	「知的かつ民衆的な現代史を統合する創作活動」を評価され、朝日賞受賞
2002	「太鼓たたいで笛ふいて」初演、読売演劇大賞最優秀作品賞、毎日芸術賞、鶴屋南北戯曲賞を受賞
2003	日本ペンクラブ会長に就任(07年まで)
2009	『ムサシ』『組曲殺殺』初演、日本芸術院賞受賞
2010	4月9日逝去、享年75歳

井上ひさしのことば

むずかしいことをやさしく やさしいことを
ふかく ふかいことをゆかいに

ゆかいなことをまじめに

日本語の達人、井上ひさしの遺したことをほんの少し拾い集めてみました。これらのことばから井上ひさしの生き方、大切にしていたことの一部が見えれば・・・

■ 数多く井上戯曲を演出している 演出家 栗山 民也 (遺作『組曲虐殺』他多数)

一人ひとりの人生をすくいとって描き続けた井上さん。プロレタリア文学の作家小林多喜二を描いた『組曲虐殺』が最後になってしまいました。多喜二は特高による3時間の拷問で命を奪われたわけですが、プロットに添えられた井上さんの手紙には「拷問のシーンを書くときにはうんぐん唸って書いています」とありました・・・

(2010. シアターガイド)

■ 今村 忠純 (大妻女子大学教授・日本近代文学)との対談より

- 「やはり、演劇は、最後は俳優の声ですからね」
- 日常生活の行き話まりーそこから脱出するには、よい物語とよい笑いが必要ですね。ピンチによって強張ったひとを救えるのは笑いだけなんです。
- ほとくの小説の主人公はみんな弱虫ですから、おおよそテレビや映画に向いていません。
- 小山内薫が劇作家の役割は船の設計だと言っています・・・船の大きさも機能も違う。演出家が船長です。芝居というのは船の設計なんだ、あとは航海士が役者でお客さんが乗って、船旅をして、船を降りたときに「ああおもしろかったね。また船に乗ろうね」というのが劇作家の仕事だと書いてあって・・・ちゃんとした船をつくれれば、ほかのひとの努力が船内に積み重なって行く。しかし旅のような船をつくと、スタッフ、キャストの努力がみんな外に流れ出てしまう。

(『悲劇喜劇』2009.12号特集 こまつ座25周年)

■ 戯曲の中のせりふ

- 「太鼓たたいて笛ふいて」

休んでいるひまはないんだわ。
書かなくては、
書かなくてはね。
(林 美美子)

・「頭痛肩こり樋口一葉」

世間とは因縁の糸でできた大きな大きな網。その網は、とくに女になにもさせないようにできている。そんな世間に大人しくおさまっていてやるものか。(樋口一葉)

■ 「シャンハイムーン」のパンフレット(季刊the座) 井上ひさし「魯迅の講義ノート」より

仙台、第二高等学校で学んだ魯迅が講義を受けた藤野先生。「黒い詰襟の服の上につんつるてんの古外套をまとい、・・・ずりおちそうになる眼鏡を治しながら、研究のためにいつも頭蓋骨を抱えて学校と自宅を往復するので巡査に怪しまれ・・・。ちょっと眇めの七つ年上の教授の姿を思い浮かべるたびに魯迅は芯から暖かくなったのではないか」「魯迅の56年の生涯を貫くもの一つに「一般論は危険だ」という考えがあったのではないかと私は思う。「日本人は狡猾だ」「アメリカ人は明るい」・・・「フランス人は洒落ている」といういい方は避けよう。日本人にも大勢の藤野先生がいる。日本人はとか中国人はとか物事を一般化して見る見方には賛成できない。一略一臨終近い魯迅の周辺を日本人が守り固めていた。抗日統一戦線の政策を支持しながら、良質の日本人がいることを知っていた魯迅も立派だが、当時の日本人の合言葉「不潔なシナ人」にとらわれることのなかったこれらの日本人もまた立派だった。

博覧強記の作家は、膨大な知識の蓄積と、苦心惨憺の末にことばをからだからひねり出した。私たちはその遺された作品のことばに勇気付けられ、慰められ、泣きながら笑い、生きる力を得るでしょう。



朗読劇団朗読 GENの歩み

もう10回!! まだ10回・・・

2003年から9年が経ち、第10回記念公演を迎えました。2002年末、創設メンバーが所属していた教室の指導者 姉川明子先生が、講師を辞めるといので、それは大変、ついて行きますと云って、5名で結成したのが朗読GEN。第1回公演のチラシも出来、さあ稽古と思った矢先、恩師は入院。途方にくれたが、先輩諸姉

にはっぱをかけられ、奮闘。何とか第1回公演が終わり、さて、どうすると言っているうちに、その年の10月恩師が無念にも逝ってしまわれた。が、ここで辞めては恩師に対して、又励まして下さった方々に申し訳ないと思ってやっているうちに、とうとうここまで来ました。今、ここにその歩みを記します。

■ GEN年表

- 03.08.22 シアトリカル應典院：第1回旗揚げ公演 新美南吉の世界「ごんぎつね」「百姓の足、坊さんの足」
- 03.08.27 梅花高校：高校1年HR 「外部売り」「ごんぎつね」
- 03.12.28 神戸、宝地院 村上春樹「もしもしよ」【フリオイグレシアス】
- 04.03.13 城北生涯学習センター：城北春まつり 斎藤隆介「死神どんぶら」
- 04.03.28 大阪市立青少年センター：アーツコンペ 村上春樹「もしもしよ」【フリオイグレシアス】
- 04.07.11 シアトリカル應典院：第2回定期公演 藤田直永「水に流して」
- 04.11.31 梅花高校：3年HR 「外部売り」「もしもしよ」【フリオイグレシアス】
- 04.11.26 梅花高校：1年HR 上と同じ
- 04.12.28 神戸、宝地院 中江俊夫「あと2時間だ」 江国香織「桃子」
- 05.07.16-17 シアトリカル應典院：第3回定期公演 語り継いでゆきたい、あの日のこと。 栗原貞子「生ましめんかな」 山川方夫「夏の舞列」 妹尾河童「少年H」
- 05.12.18 相愛大学・視聴覚室 関西短期大学図書館協議会研修会 山尾三省「火を焚きなさい」 山頭火「行乞記」
- 05.12.18 中央公会堂展示室 クリスマス発表会のゲスト出演 江国香織「桃子」
- 06.03.25 シアトリカル應典院：姉川明子追悼公演 平岩弓枝「冤霊夜ばなし」 (他の出演者は声の宅配便・オーヘンリー「最後のひと筆」) 全員で谷川俊太郎「生きる」を朗読
- 06.07.15-16 シアトリカル應典院：第4回定期公演 不思議・ふしぎ・フシギの世界 中島敦「山月記」 泉鏡花「外科室」 筒井康隆「五郎八航空」
- 06.10.22 大阪市立岡田市民学習センター：城北秋まつり 村上春樹「もしもしよ」【フリオイグレシアス】
- 06.11.28 梅花高校：2年HR 外部売り 志賀直哉「転生」 村上春樹「フリオイグレシアス」
- 06.12.23 枚方市百済神社：中宮サロン第1回例会 金子みすず 詩5編、志賀直哉「転生」 村上春樹「フリオイグレシアス」
- 07.07.14 シアトリカル應典院：第5回定期公演 近松門左衛門「菅根崎心中」 田辺聖子「薄荷草の恋」
- 07.12.08 枚方サン・ブラザ生涯学習センター・視聴覚室 中宮サロン第13回例会 金子みすず 詩3編、藤沢周平「驟(はし)り雨」 村上春樹「もしもしよ」【フリオイグレシアス】「トランプ」
- 08.07.12-13 一心寺シアター倶楽 第6回定期公演 芥川龍之介「地獄変」 今江祥智「ぼるちざん」
- 08.10.13 シアトリカル應典院 平岩弓枝「冤霊夜ばなし」 筒井康隆「蘭語話法」
- 08.12.13 枚方サン・ブラザ生涯学習センター・視聴覚室 小泉八雲「耳なし芳一」 浅田次郎「住人」
- 09.07.25-26 一心寺シアター倶楽 第7回定期公演 武者小路実篤「久米仙人」 小川未明「赤いろろそくと人魚」 泉鏡花「夜叉ヶ池」
- 09.12.12 枚方サン・ブラザ生涯学習センター・視聴覚室 岡本綺堂「経緯子の秘密」 遠藤周作「女の決闘」
- 10.02.14 大阪市立青少年センター 法円院フエスティバル 遠藤周作「女の決闘」
- 10.02.25 豊西外国語大学中宮学舎、多目的室 図書館協会阪神地区協議会 2009年度第2回例会 金子みすず 詩4編、遠藤周作「女の決闘」
- 10.10.11 一心寺シアター倶楽：第8回定期公演 太宰治 新訳『源氏物語』「赤い太鼓」・「走れメロス」
- 10.12.12 枚方サン・ブラザ生涯学習センター・視聴覚室 宮崎みゆき「片葉の声」
- 11.04.12 シアトリカル應典院 姉川明子を偲んで一朗読公演会 出演者：朗読グループ あじさい「オリオン座からの招待状」 朗読グループ 龍「よだかの星」 朗読劇団 朗読GEN「片葉の声」
- 11.07.30-31 一心寺シアター倶楽：第9回定期公演 小泉八雲「耳なし芳一」 宇江佐真理「楳ね、よい女房」
- 12.02.13 一心寺シアター倶楽 日韓演劇フエスティバル 金 倫永「秘密の花園」